GS YUASA
Creating the Future of Energy

インベスターズガイド 2026



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
(証券コード：6674)

様々なフィールドで活躍するGSユアサ

At a Glance

こんなところにGSユアサ

GSユアサは、電池を通じて快適・安心・安全を提供するエネルギー・デバイス・カンパニーです。
当社の製品は、「モビリティ」と「社会インフラ」領域を中心に、
世界中のあらゆる産業の中で人々の暮らしを支えています。



01 自動車

長年培ってきた技術力で、アイドリングストップ(ISS)車や電動車の補機用など、自動車の技術革新に合わせた電池を開発し、自動車の進化を支えています。

長年の実績と技術力で、小型車から業務用の大型車、電動車まで、あらゆる車種に対応する製品をラインアップしています。



02 オートバイ

振動耐久性やエンジンの始動性など、オートバイ特有の使用環境に対応した技術で、世界で高い信頼性を獲得しています。

東南アジアやアフリカ、中南米などの新興国において、急速に拡大する需要に対応しています。



03 電動車

電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHEV)・ハイブリッド車(HEV)用リチウムイオン電池が、環境対応車の普及に貢献しています。

ホンダ、トヨタ、三菱自動車などの日系自動車メーカーの電動車に当社のリチウムイオン電池が搭載されています。



Honda「FIT HYBRID」

04 鉄道

鉄道の環境性能向上とエネルギーの有効活用・安定輸送の実現に、当社のバックアップ用電池・電源システムが貢献しています。

鉄道の安定輸送に欠かせない信号システムや通信システムの電力網のバックアップなどに、重要な役割を果たしています。



「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」(提供:JR西日本殿)

05 港湾設備

コンテナを搬送する港湾AGV(無人搬送車)やガントリークレーンの電動化に、当社の産業用リチウムイオン電池が貢献しています。

当社の港湾AGVの駆動用リチウムイオン電池システムが、世界最大の自動化埠頭である上海洋山深水港で稼働しています。



06 発電所

発電所の安定稼働に当社のバックアップ用電池・電源システムが貢献しています。

停電時に非常照明を灯したり、非常用発電機を始動させるまでのバックアップを行うなど、重要な設備を動かし続ける役割を果たしています。



07 太陽光発電・風力発電

天候に左右される太陽光発電の有効活用や防災機能の強化、風力発電の出力変動緩和と系統の安定化に蓄電システムが貢献しています。

北豊富変電所に容量720MWhの蓄電池設備を納入し、風力発電設備と連系することで系統の安定化に寄与しています。



蓄電池設備全景(提供元:千代田化工建設㈱)

08 ビル

災害時の電力途絶を想定したバックアップ用電池・電源システムで、ビルの非常照明設備など、社会生活の安心安全に貢献しています。

有事の際にもビジネスやサービスを継続するため、オフィスビル、病院などのバックアップ電源の重要性が注目されています。



09 データセンター

近年のデータセンターの需要増加に対し、当社のバックアップ電池が電力の安定供給に貢献しています。

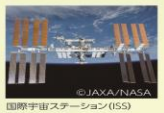
データセンターのサーバーやサービスをバックアップするUPSや蓄電池の需要拡大に対応し、高品質な国産鉛蓄電池を提供しています。



10 宇宙(ISS・人工衛星など)

過酷な環境下でも長期間使用でき、高容量・高性能な宇宙用リチウムイオン電池が、宇宙開発事業に貢献しています。

宇宙用リチウムイオン電池を世界に先駆けて開発し、国際宇宙ステーションなどに搭載されています。



©JAXA/NASA 国際宇宙ステーション(ISS)

11 フォークリフト

工場内の運搬作業や物流の現場に欠かせないフォークリフトに、大容量かつ長寿命なバッテリーが採用されています。

大きなパワーと長時間作業をこなす画期的な大容量仕様に加え、長寿命設計が現場で高く評価されています。



12 航空機

最先端の航空機に当社の航空機用リチウムイオン電池が搭載され、環境性能と経済性の向上に貢献しています。

省エネのための徹底した軽量化と電源の安定性も求められるため、軽量で高性能のリチウムイオン電池を開発しました。



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

1．会社概要

■基本情報 …… 4
■統合後の歩み …… 5
■事業別売上構成と主な製品 …… 6
■地域別売上構成と拠点展開 …… 7
■ＧＳユアサの強み／優位性 …… 8

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

基本情報

会社名	株式会社 ジーエス･ユアサ コーポレーション
設立	2004年4月1日 ※日本電池(1917年設立)とユアサ コーポレーション(1918年設立)が経営統合
本社	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地
資本金	528億円
売上高	6,090億円 (2026年3月期)
従業員数 (連結)	12,562名 (2026年3月31日現在)
上場市場	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード：6674)



代表取締役 取締役社長 **阿部 貴志**

1989年4月に日本電池(現ＧＳユアサ)に入社。営業職からアメリカ子会社の社長を経験し、経営戦略室においてパナソニック㈱の鉛蓄電池事業の譲受に携わった後、㈱ＧＳユアサ エナジーの副社長、産業電池電源事業部、自動車電池事業部事業部長を経て2024年6月に当社代表取締役 取締役社長に就任。

企業理念

「革新と成長」

**GS YUASAは、
社員と企業の
「革新と成長」を通じ、
人と社会と地球環境に貢献します。**

GS YUASA
Creating the Future of Energy



サステナビリティ経営方針

**GS YUASAは、
電池で培った先進のエネルギー技術で
世界のお客様へ快適さと安心をお届けし、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。**

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

統合後の歩み

2009年
EV用リチウムイオン電池を
世界初量産化



2010年代
ホンダ向けに
HEV用リチウムイオン電池を供給



ホンダ「FIT HYBRID」

2016年
リチウムイオン電池が
国際宇宙ステーションに搭載



©JAXA/NASA

2020～2021年
世界最大規模の
風力発電用蓄電池設備(北海道豊富町)納入



売上高 2,343億円
営業利益 9億円

売上高 6,090億円
営業利益 602億円

2026年度目標
売上高 6,800億円
営業利益 665億円

2028年度目標
売上高 7,200億円
営業利益 650※億円
※現在見直しを検討中

2004 2007 2009 2016 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2028（年度）

第一次中計(06-08年度) 第二次中計(10-12年度) 第三次中計(13-15年度) 第四次中計(16-18年度) 第五次中計(19-22年度) 第六次中計(23-25年度) 第七次中計(26-28年度)

2004年
㈱ジーエス・ユアサ
コーポレーション設立

日本電池 GS ユアサコーポレーション YUASA
GS YUASA

2007年
三菱商事㈱、
三菱自動車工業㈱と合弁で
車載用リチウムイオン電池の
開発・製造・販売会社
㈱リチウムエナジー ジャパン設立



2009年
本田技研工業㈱と合弁で
車載用リチウムイオン電池の
開発・製造・販売会社
㈱ブルーエナジー設立



2016年
パナソニック㈱から
鉛蓄電池事業を譲受し、
商号を㈱GSユアサ エナジーに変更



2021年
サンケン電気㈱から
社会システム事業を譲受



2023年
本田技研工業㈱と合弁で
EV用を中心とした
リチウムイオン電池の
研究開発を行う㈱Honda・
GS Yuasa EV Battery
R&Dを設立

GS YUASA × HONDA

(注) 2024年度以前はのれん等償却前営業利益、のれん償却前営業利益率で表示しています。2025年度以降は営業利益、営業利益率で表示しています。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

事業別売上構成と主な製品

社会インフラ

航空・宇宙・防衛　3%

- 宇宙用 リチウムイオン電池
- 航空機用 リチウムイオン電池




その他　1%

産業電池電源　25%

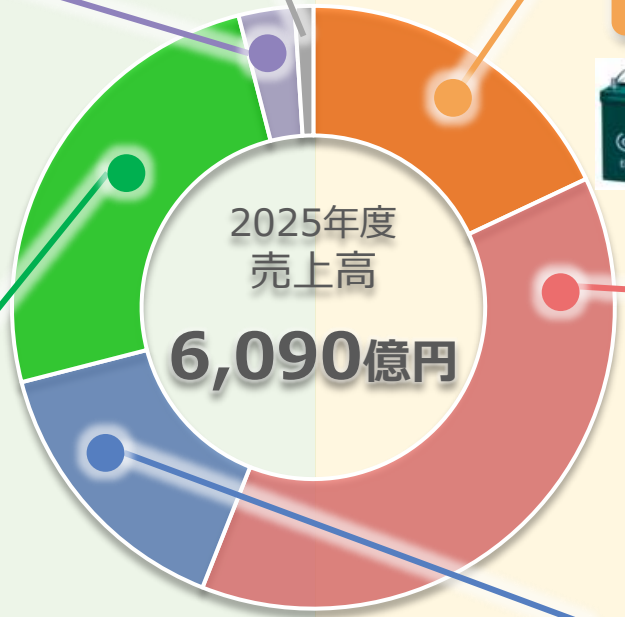
- バックアップ用 電源システム
- 産業用 鉛蓄電池
- フォークリフト用 鉛蓄電池





- 産業用 リチウムイオン電池
- ESS用 リチウムイオン電池



モビリティ

鉛蓄電池（国内）　18%

- 自動車用 鉛蓄電池
- オートバイ用 鉛蓄電池




鉛蓄電池（海外）　38%

- 自動車用 鉛蓄電池
- オートバイ用 鉛蓄電池




リチウムイオン電池　15%

- ハイブリッド車(HEV)用 リチウムイオン電池
- バッテリーEV(BEV)・プラグインハイブリッド車(PHEV)用リチウムイオン電池




(注) 2026年度より、鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。2025年度の売上高のセグメント割合は変更後の報告セグメントにより記載しています。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

地域別売上構成と拠点展開

国内主要拠点

ＧＳユアサの事業所・支社
主要グループ会社

・ジーエス・ユアサ コーポレーション
・ＧＳユアサ
・Honda・GS Yuasa EV Battery R&D



群馬事業所



川越事業所



・ジーエス・ユアサ バッテリー
・ＧＳユアサ フィールディングス

ＧＳユアサ エナジー



栗東事業所

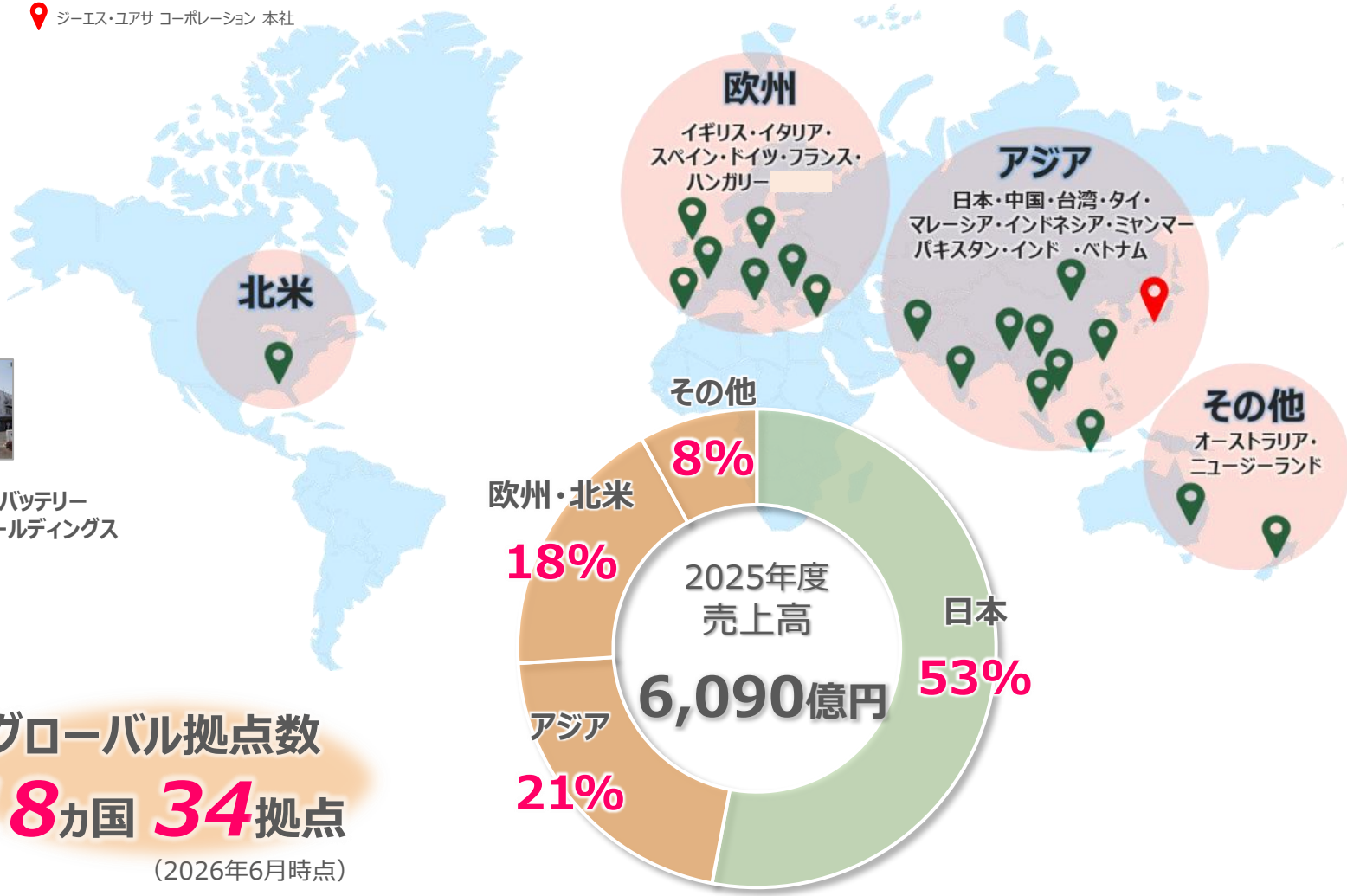


・長田野事業所
・ジーエス・ユアサ テクノロジー
・ブルーエナジー



海外主要拠点

海外拠点
ジーエス・ユアサ コーポレーション 本社



グローバル拠点数
18カ国 34拠点
（2026年6月時点）

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

ＧＳユアサの強み／優位性

社会インフラ：鉛、LiB開発で磨いた力で、社会インフラを成長ドライバーへ
モビリティ：鉛、LiBを両立する製品ポートフォリオで強固な基盤を確立

社会インフラ



高出力×長寿命を実現する電池性能

- 自動車用鉛蓄電池およびHEVで一貫して高出力が求められる電池の開発実績
- 直近のインフラ向け案件では、この評価軸が決め手となり、受注



長年の実績に基づく安心・安全の信頼性

- 防衛用途でも高い評価を受けている高い信頼性
- ESSで10年超えても市場不具合が発生していない高い安全性



安定稼働を支える保守・運用（O&M）サービス力

- 国内非常用で、全国規模のサービス網を構築し、保守・点検・復旧まで一貫提供してきた実績
- ESSでは保守サービス「STARELINK」を展開し、導入後の安定運用を継続的に支援

モビリティ



主要OEMとの強固な関係性と採用実績

- 国内外主要OEM向けに長年の採用実績を有し、継続受注・車種横展開を実現
- 厳格な車載品質要求・監査基準を継続的にクリアし、開発段階からの共同開発が可能



鉛、LiBを両立する製品ポートフォリオ

- 鉛蓄電池からHEV／12V LiBを通して培ったサイクル劣化抑制と高電流対応技術



国内外に広がるアフターマーケット基盤

- 鉛蓄電池で確立した国内外の販売・流通ネットワークを保有し、安定した交換需要を獲得
- 長年のビジネスによるブランド認知と販売店網により、高い市場浸透率を維持

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2．Vision2035、第七次中期経営計画

■Vision 2035（長期ビジョン） …… 10
■Vision 2035（長期ビジョン）社会インフラへの取り組み　産業用電池電源 …… 11
■Vision 2035（長期ビジョン）社会インフラへの取り組み　航空・宇宙・防衛 …… 12
■Vision 2035（長期ビジョン）モビリティについて …… 13
■第七次中期経営計画（2026～2028年度） …… 14

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

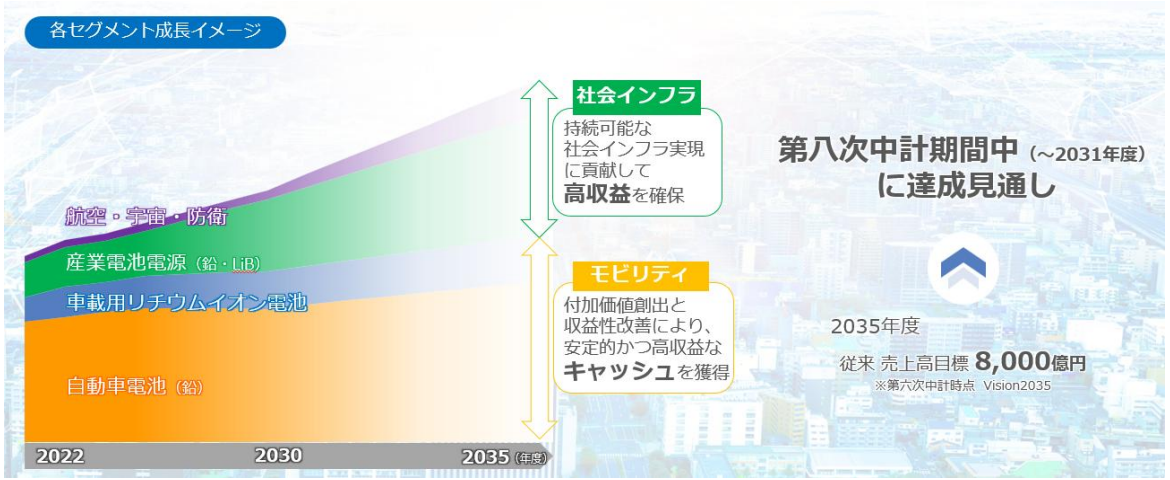
Vision 2035 (長期ビジョン)

2035年のＧＳユアサのありたい姿

GS YUASAは、4つの『Re』をキーワードにエネルギー技術の革新をすすめ、
モビリティと社会インフラの成長による社会課題解決に貢献し、
持続可能な社会と人びとの快適な生活環境を実現します。

Vision 2035

- **Reborn** 100年事業を実現した創業者精神を呼び起こす
- **Renewable** カーボンニュートラル実現へ貢献
- **Reliable** 技術革新にこだわり、信頼できるエネルギーを届け続ける
- **Respect** SDGsへの取り組みを尊重し、社会に貢献





鉛事業は安定キャッシュの最大化で成長投資の原資を創出

- 新車向け市場は、SDV※による高容量の要求もあり、今後も堅調に推移
- 安定的かつ高収益なキャッシュ創出をしていく



車載用LiBは選別投資でリスクを抑え、収益体質へ転換

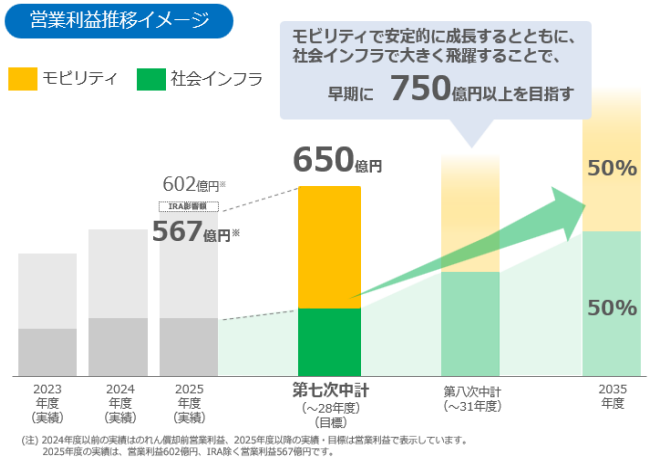
- BEVは事業環境の変化等を踏まえ検討中
- HEV／PHEV／12V LiBは既存キャパシティの稼働を高め、収益性向上を高める



社会インフラは成長の柱とし、重点領域へ集中投資で加速

- ESS・データセンター領域における将来の長期契約・サービス収益につながる案件獲得に注力
- 「蓄電池に係る供給確保計画」に基づき国産LiB工場を立ち上げ、国産電池セルからO&Mまで一気通貫で対応

※ SDV…Software Defined Vehicle の略。ネットワークを通じて車両機能を継続にアップデートする次世代自動車のこと。



モビリティ

- 鉛蓄電池事業を中心に収益性を最優先に事業を運営し、安定的に高い利益水準を確保（投資は規律運用・効率改善を徹底）
- 原価改善・製品Mix改善・生産性向上で営業利益を着実に成長させ、35年度に向けても増益基調を継続

社会インフラ

- 第七次中計は投資・案件仕込み、28年度稼働を起点に利益が立ち上がり（長期契約・サービス収益の積み上げを加速）
- 第八次中計での利益成長をけん引し、2035年度に向けて利益貢献を50：50へ（ESS／AI／防衛などの重点領域で拡大）

＊関連リンク WEBサイト「長期ビジョン・中期経営計画」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

第七次で仕込み、第八次で回収フェーズへ

- 生成AIDC増設による電源需要と、再エネ拡大起点のESS需要が同時に立ち上がり、市場が拡大局面へ
- 顧客期待の高まりを背景に受注が拡大

- 国内の需要を確実に獲得し、ポジションを築き、海外も狙う
- 国産LiB製造に向けた工場・設備投資の実施（28年度後半から稼働開始）

- 稼働した新工場・新製品を柱に、国内・海外での売上を伸ばし確実に投資回収を行う
- さらにサービスビジネスの積み上げによる利益の最大化を図る



＊関連リンク WEBサイト「長期ビジョン・中期経営計画」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

Vision 2035（長期ビジョン）

-社会インフラへの取り組み-
航空・宇宙・防衛

唯一無二の技術力を強みに需要を獲得し、持続的な成長を目指す

- 増産投資した生産能力を活用して収益拡大、確実な投資回収
- 航空機向け大型LiBの需要拡大
- アルテミス計画をはじめとした宇宙用途の拡大

第八次中計以降（2029年度～）

- LiB搭載潜水艦の新造艦および交換用に対応するため増産投資
- 防衛用の特殊用途向け熱電池の増産投資

第七次中計

投資回収・飛躍フェーズ

事業拡大・増産投資フェーズ

潜水艦用LiB増産投資（2027～2029年度） → **増産開始（2030年度）**

熱電池増産投資（2026～2027年度） → **増産開始（2028年度）**

航空・宇宙・海洋向けLiB増産投資（2026～2027年度） → **増産開始（2029年度）**

主な採用・搭載事例



ISS(国際宇宙ステーション)



H3ロケット


Boeing 787



潜水艦

主な取り扱い製品と用途

大型リチウムイオン電池



●宇宙　●航空機 等

熱電池



●宇宙　●特殊飛翔体

リチウム1次電池



●海中機器　●海洋標識 等

酸化銀 - 亜鉛電池



●防衛用

海水電池

●水中機器　●海洋標識 等

大容量鉛蓄電池・リチウムイオン電池

●防衛用(潜水艦用含む)

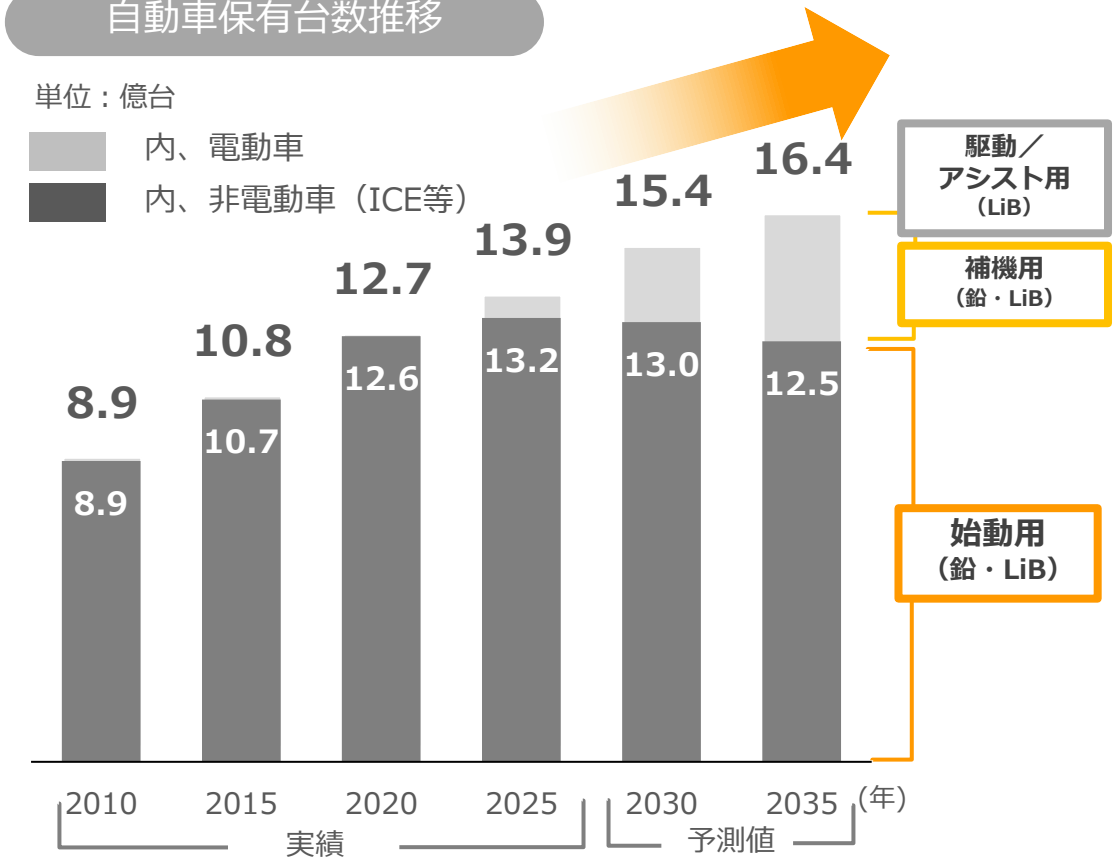
＊関連リンク WEBサイト「長期ビジョン・中期経営計画」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

Vision 2035（長期ビジョン） -モビリティについて-

キャッシュの最大化で成長投資の原資を創出

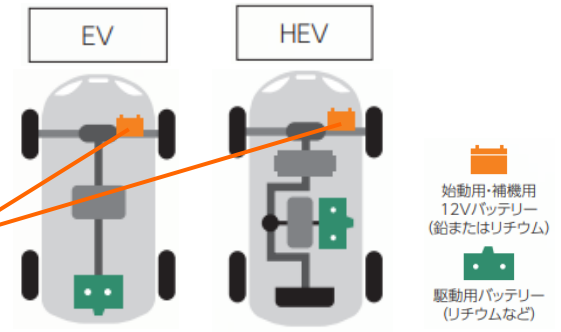
自動車保有台数推移



（注）グラフにおける電動車はHEV、PHEV、BEV含む

出展: Wood mackenzie「No. of Road Vehicles (Car Parc)」(2026年4月16日時点)より当社作成

EVやHEVなどの電動車でも
鉛蓄電池は1台に1つ搭載
・始動用／補機用
（12V LiBは鉛蓄電池の代替品）



環境

- 2035年でも非電動車が大半を占める
- 電動車にも補機用電池（鉛蓄電池又は12V LiB）が搭載
- 特に電動車は車両の消費電力量が増加しており、蓄電池の高容量化ニーズがある

取組

- **鉛蓄電池は収益性を重視してキャッシュを最大化**
- **高容量化ニーズに対応する蓄電池（鉛、12V LiB）を開発**
- **電動車の駆動／アシスト用は、収益性重視で既存のキャパシティを最大限活用**

＊関連リンク WEBサイト「長期ビジョン・中期経営計画」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

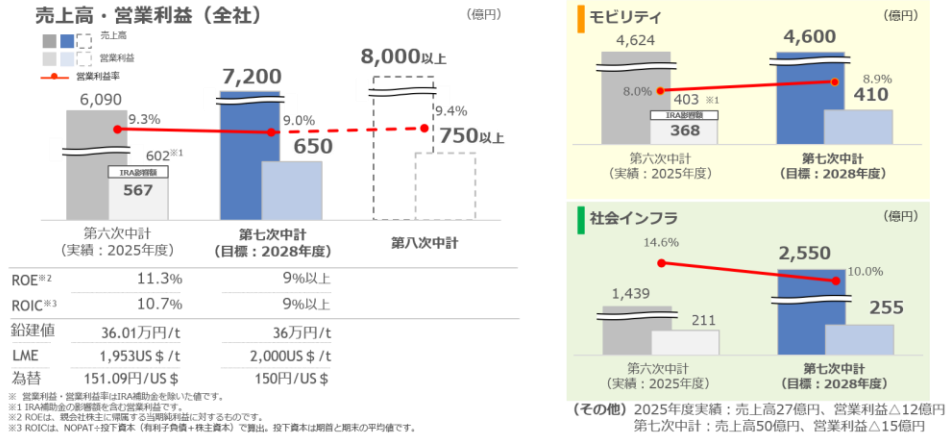
第七次中期経営計画（2026～2028年度）

第七次中計の位置づけ

"モビリティ"と"社会インフラ"の2軸の事業基盤構築フェーズ

- **モビリティ事業**：鉛蓄電池を中心に収益性を重視した事業運営を行う
- **社会インフラ事業**：基盤構築フェーズと位置づけ、ポジション確立を優先

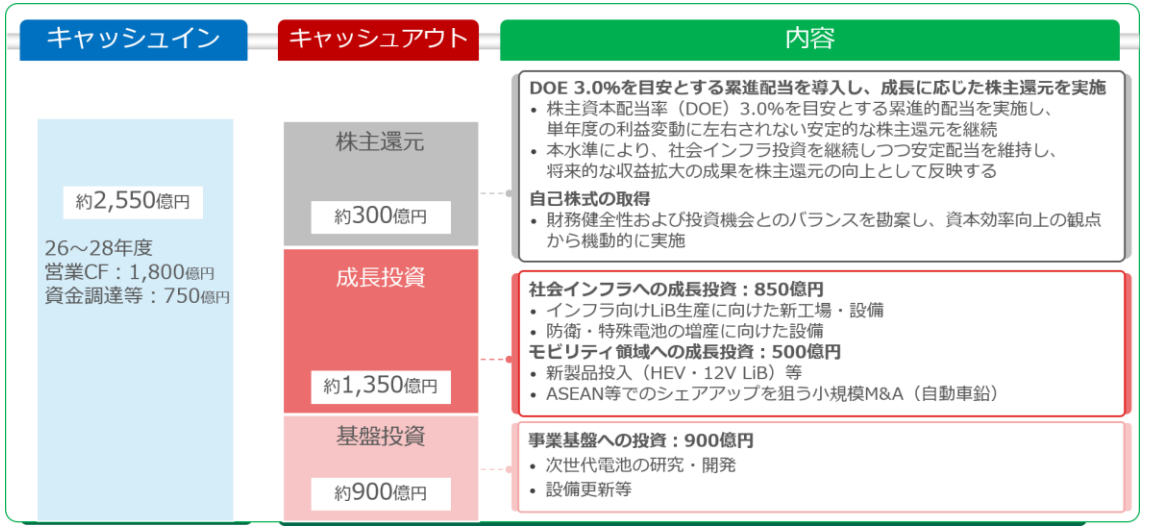
財務目標



	第六次中計（実績：2025年度）	第七次中計（目標：2028年度）
ROE※2	11.3%	9%以上
ROIC※3	10.7%	9%以上
鉛建値	36.01万円/t	36万円/t
LME	1,953US＄/t	2,000US＄/t
為替	151.09円/US＄	150円/US＄

※ 営業利益・営業利益率はIRA補助金を除いた値です。
※1 IRA補助金の影響額を含む営業利益です。
※2 ROEは、親会社株主に帰属する当期純利益に対するものです。
※3 ROICは、NOPAT÷投下資本（有利子負債＋株主資本）で算出。投下資本は期首と期末の平均値です。

（その他）2025年度実績：売上高27億円、営業利益△12億円
第七次中計：売上高50億円、営業利益△15億円



モビリティ：事業規模に見合った投資を徹底し、収益力のさらなる強化を図る
社会インフラ：成長に向けた投資を着実に実行し、強固な事業基盤の構築を行う

	モビリティ	社会インフラ
事業方針	既存工場の稼働率向上と原価低減で収益力を強化	将来成長を見据えた戦略的設備投資により、市場ポジションを強化
主要施策	1 12Vの新製品開発（鉛／LiB）によるラインアップ強化と搭載車種拡大	1 「蓄電池に係る供給確保計画」の認定を受けた純国産メーカーとしてESS市場でのプレゼンス拡大
	2 市場変化に対応する、新商品開発と生産体制構築	2 AIDC向けに最適な製品開発と販売強化（国内および米国）
	3 アセアン拠点を中心としたグローバル・サプライチェーン強化	3 非常用：DX x AIによる効率化推進で収益力強化
	4 HEV：既存工場の稼働率向上および効率化	4 防衛用のオンリーワン製品（潜水艦用LiB、特殊用途向け熱電池等）で高付加価値特殊電池の受注拡大

＊関連リンク WEBサイト「長期ビジョン・中期経営計画」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

3．事業概要

■モビリティ　鉛蓄電池（国内） …… 16
■モビリティ　鉛蓄電池（海外） …… 17
■モビリティ　リチウムイオン電池 …… 18
■社会インフラ　産業電池電源 …… 19
■社会インフラ　航空・宇宙・防衛 …… 20
■設備投資・減価償却費・研究開発費 …… 21
■株主還元 …… 22
■研究開発：次世代電池開発の取り組み …… 23

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

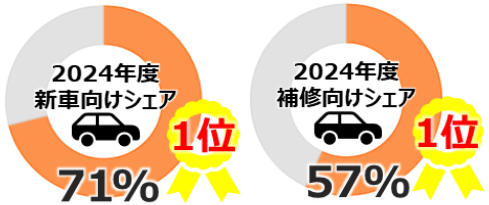
モビリティ　鉛蓄電池（国内）

事業の概要・特徴

国内自動車・オートバイ用鉛蓄電池の製造・販売

- 新車向けと補修向けがある。
- 補修向けの方が利益率が高い傾向にあるが、新車向けでも売価見直しを進めている。
- 10～12月が補修向けの需要期で、夏:猛暑、冬:寒冬の時に需要が増加する。
- EN (欧州統一規格) 電池の需要が新車向け・補修向けともに増加。
- アイドリングストップ (ISS) 車用鉛蓄電池の補修向け需要が増加。
- 鉛価格の変動が収益に影響。
  ※新車用：3～6か月後に販売価格に反映する仕組みあり、補修用：スライド制なし

市場シェア



※25年度以降、国内の新車・補修向けシェアが未公表のため24年度実績を表示。

拠点数

生産：4 拠点

販売：4,000 ヵ所以上の取扱店
（2026年3月時点）

販売先・グループ会社の体制

用途	販売先
新車向け	日系自動車メーカー
補修向け	代理店(電装店など)・カー用品量販店・カーディーラー・石油元売会社など

＜グループ会社＞

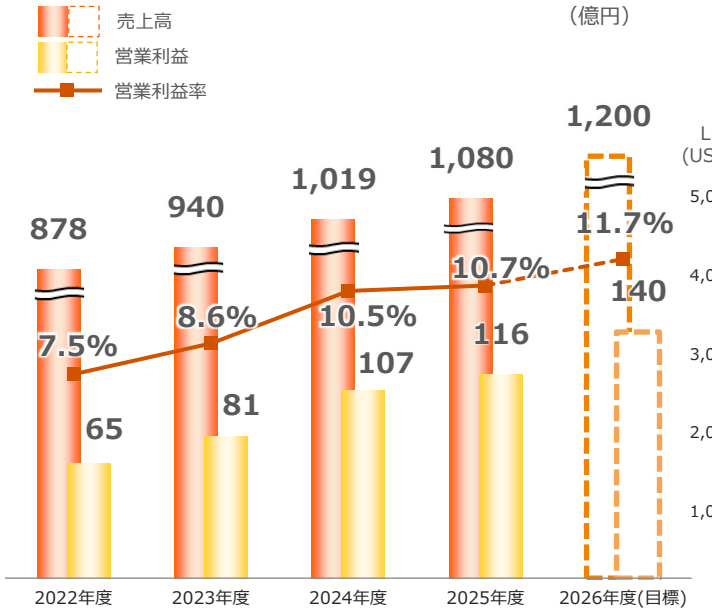
㈱ジーエス・ユアサ バッテリー	補修向け鉛蓄電池の販売
㈱ＧＳユアサ エナジー（旧パナソニック エナジー）	新車・補修向け鉛蓄電池の製造・販売

今後の戦略

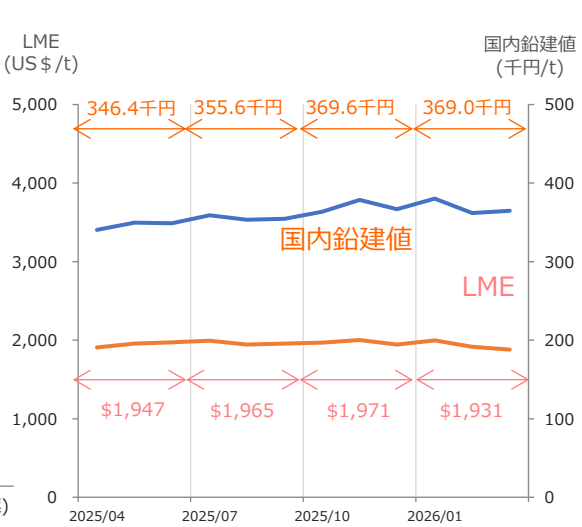
- 新車向け：原材料価格などの適正な売価反映により収益率を向上
- 補修向け：マーケティング戦略の再構築と高シェアの維持

関連データ

売上高・営業利益・営業利益率



鉛価格推移



(注) 2024年度以前はのれん等償却前営業利益、のれん償却前営業利益率で表示しています。2025年度以降は営業利益、営業利益率で表示しています。

＊関連リンク ＧＳユアサレポート2026「事業概要・市場環境」
ＧＳユアサレポート2026「事業戦略－モビリティ：鉛蓄電池事業」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

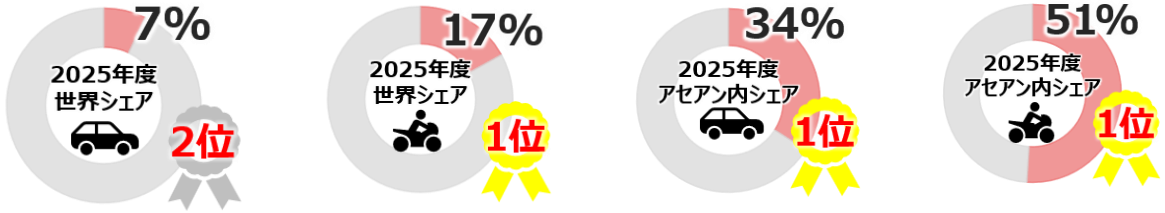
モビリティ　鉛蓄電池（海外）

事業の概要・特徴

海外自動車・オートバイ用鉛蓄電池の製造・販売　※一部産業用を含む

- 自動車用・オートバイ用共に補修向けの比率が高い。
- 主力拠点はアジアで、特にアセアン地域のシェアが高い。
- 売上構成比は、自動車用：約6割、オートバイ用：約2割、産業用など：約2割。
- 地産地消が基本のため、為替の利益影響は軽微。
- 産業用鉛蓄電池の販売実績（海外）も一部含む。(欧州のバックアップ用電池など)
- 2023年10月末に中国における連結子会社の持分70%を譲渡。
- 2026年6月末にトルコ拠点を譲渡。

市場シェア



地域別主な取扱商品／販売先

国／地域	種別	自動車用	オートバイ用	産業用	販売先
アセアン	新車用	■	■	■	新車用：主に日系自動車メーカー 補修用：代理店など ※国により異なる
	補修用	■	■		
北米	新車用	●	■	—	
	補修用	●	■		
欧州	新車用	●	●	■（バックアップ用・フォークリフト用）	
	補修用	■	●		
豪州	新車用	■	—	●	
	補修用	■	●		

■：製造・販売どちらも行っている国／地域
●：販売のみ行っている国／地域

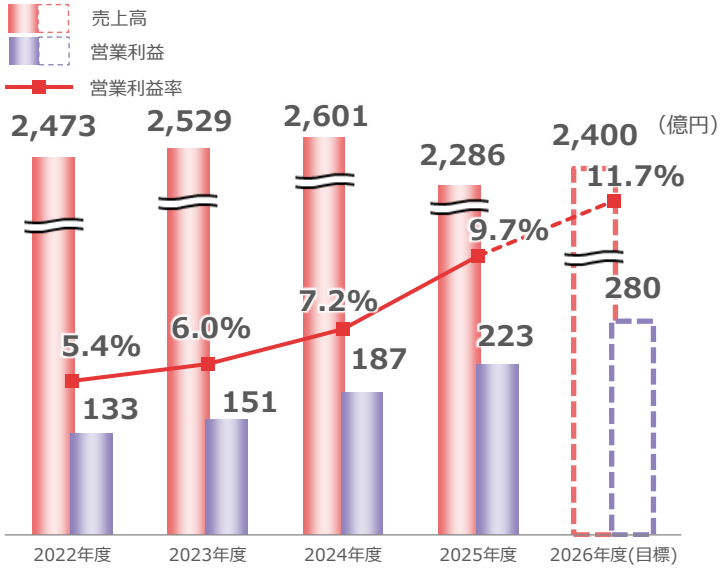
赤色：国／地域の主力事業
青色：準主力事業
黒色：非主力事業

今後の戦略

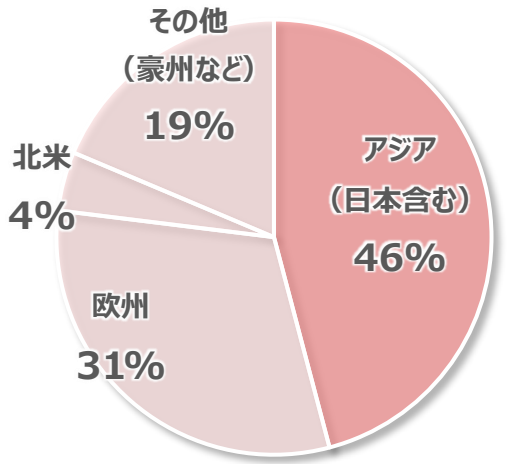
- 東南アジア
  【タイ】自動車用の中核拠点として高付加価値商品を拡販し、タイ国内でのシェア拡大と周辺国への拡販を強化
  【インドネシア】オートバイ用の中核拠点として補修・輸出向け電池の拡販による利益率改善
  【ベトナム】省人化設備導入による生産性向上と営業体制の見直しによる販売拡大
- 豪州：生産基盤の強化と「Made in Australia」戦略による販売拡大

関連データ

売上高・営業利益・営業利益率



地域別売上高（2025年度）



(注)地域別売上高については、セグメント変更前の比率で記載しています。

(注) 2024年度以前はのれん等償却前営業利益、のれん償却前営業利益率で表示しています。2025年度以降は営業利益、営業利益率で表示しています。
(注) 2026年度より、鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

＊関連リンク ＧＳユアサレポート2026「事業概要・市場環境」
ＧＳユアサレポート2026「事業戦略－モビリティ：鉛蓄電池事業」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

モビリティ　リチウムイオン電池

事業の概要・特徴

国内・海外の環境対応車用リチウムイオン電池の製造・販売、産業用向けリチウムイオン電池の製造

- ハイブリッド車 (HEV) 用：高入出力性能、バッテリーEV (BEV)・プラグインハイブリッド車 (PHEV) 用：高いエネルギー密度が求められる。
- 製品寿命が長いため、基本的に補修用はなく、新車用のみ。
- HEV用・EV用・PHEV用は日系新車メーカーの国内拠点に納入している。
- HEV用の需要拡大に対応するため、2022年にブルーエナジーの第二工場を稼働。
- 2023年7月、EV用リチウムイオン電池の研究開発を行う合弁会社㈱Honda・GS Yuasa EV Battery R&D (HGYB) をHondaと設立。(当社50%・本田技研工業㈱50%出資)

生産能力・主な搭載車種

【HEV用】
2022年度 5,000万セル／年
▼
2025年度 7,000万セル／年


本田技研工業㈱「FIT HYBRID」


トヨタ自動車㈱「RAV4」　他多数

【PHEV用】
2023年度 600万セル／年
▼
2024年度 800万セル／年

販売先・グループ会社の体制

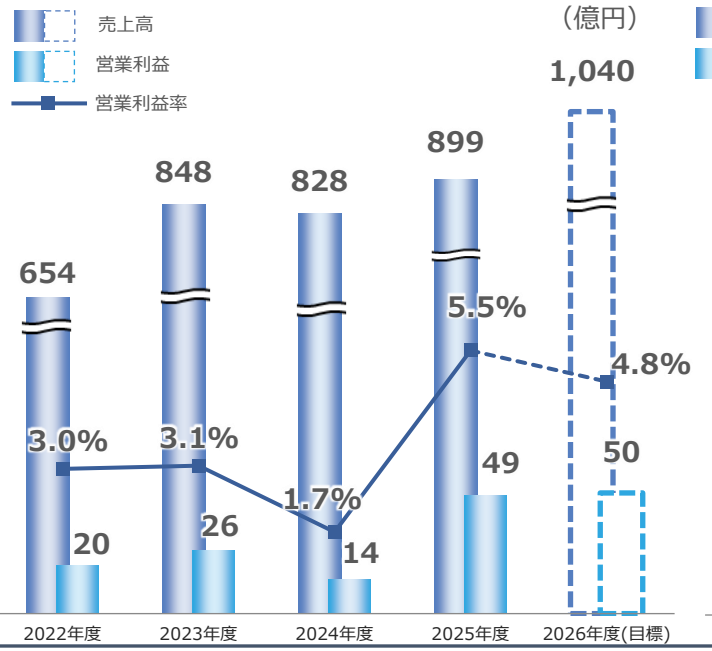
会社	出資比率	用途	販売先
㈱ブルーエナジー (BEC)	GSユアサ51%・本田技研工業㈱49%出資の合弁会社	HEV用	本田技研工業㈱・トヨタ自動車㈱・三菱自動車工業㈱
旧㈱リチウムエナジージャパン (LEJ) (現㈱ＧＳユアサ栗東事業所)	2024年3月に合弁解消・解散し2024年度よりＧＳユアサで事業継続	EV・PHEV用	三菱自動車工業㈱ほか
		ESS用	内部売上 (当社産業電池電源事業部)
ジーエス・ユアサ ハンガリー (GYHU)	GSユアサ100%出資	始動用 (12V)	欧州自動車メーカー

今後の戦略

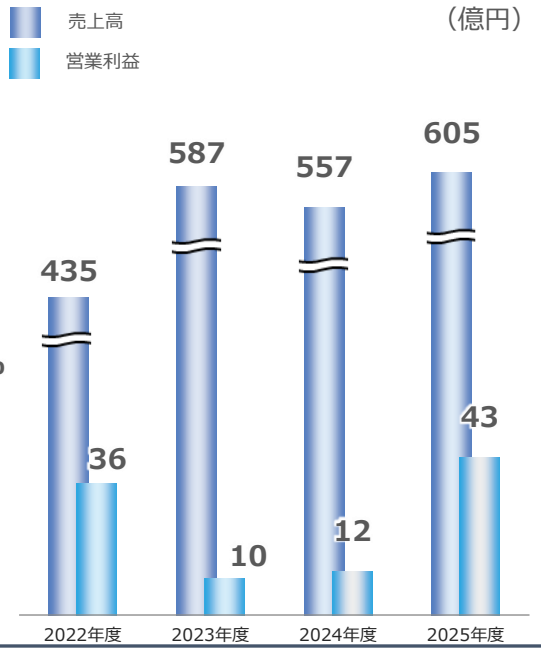
- HEV用：・生産能力拡大により、日系自動車メーカーからの需要に対応
  ・原材料高騰やインフレなど状況に応じた売価見直し
  ・生産能力に合わせた設備の安定稼働と歩留まりの改善
- PHEV用：生産能力拡大による需要対応
- BEV用：日系自動車メーカーからの需要にあわせて柔軟に対応

関連データ

売上高・営業利益・営業利益率



ブルーエナジー業績推移



＊関連リンク ＧＳユアサレポート2026「事業概要・市場環境」
ＧＳユアサレポート2026「事業戦略－モビリティ：リチウムイオン電池事業」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

社会インフラ　産業電池電源

事業の概要・特徴

社会インフラの電力バックアップ用電池・電源装置、フォークリフト用鉛蓄電池、再生可能エネルギー用ESSなどの製造・販売

- バックアップ用は受注生産で設計・製造から工事・メンテナンスまでワンストップで行うため、営業利益率が高い。官公庁向けの案件は特に営業利益率が高い。
- 売上高・利益は官公庁向けの納入が多い4Q (1～3月) に集中する傾向。
- 2021年5月にサンケン電気㈱の社会システム事業を譲受。
- 常用 (再生可能エネルギー用) 分野の売上高が増加傾向。
- フォークリフト用はエンジン式からバッテリー式への移行で増加傾向。
- 2026年度より北米AIデータセンター向けに納入開始。

市場シェア

バックアップ用鉛蓄電池・
フォークリフト用鉛蓄電池
国内シェア 1位

拠点数

生産・販売：8 拠点
サービス網：100 ヵ所以上
(2026年3月時点)

地域別主な取扱商品／販売先

用途		種別	販売先
非常用（バックアップ用）	携帯電話基地局、発電所、鉄道など社会インフラ設備	鉛蓄電池	鉄道、電力、官公庁、通信キャリア、民需など ※代理店や電気工事会社、電機・通信機器メーカーなどを経由する場合もある
		リチウムイオン電池	
		電源装置	
常用(ESS用)	事業所のピークカット／ピークシフト 太陽光／風力発電向けESS	リチウムイオン電池	
フォークリフト用	バッテリー式フォークリフト、電動車いすなど	鉛蓄電池	フォークリフトメーカー、メーカー代理店

＜海外取扱製品＞

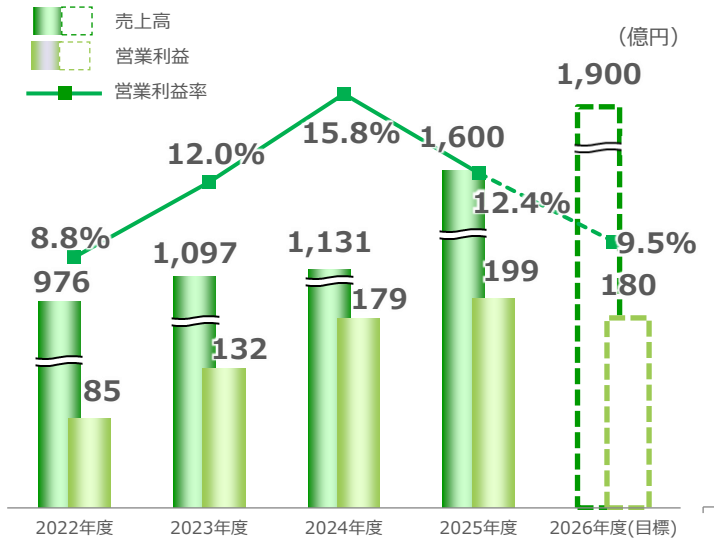
国／地域	バックアップ用	フォークリフト用
タイ	—	●
北米	●	—

今後の戦略

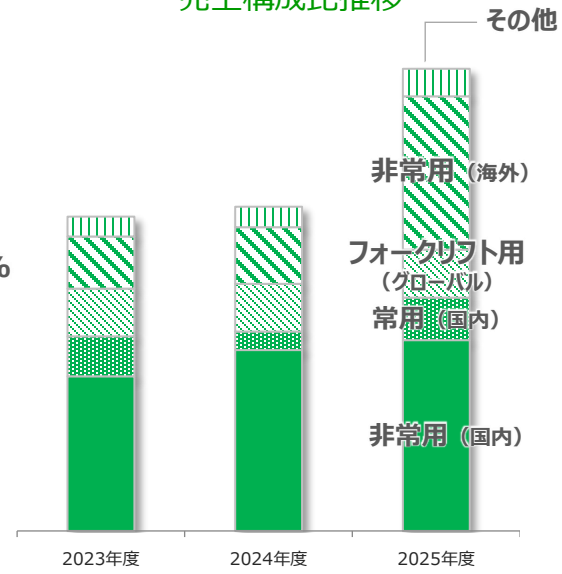
- 非常用 (国内)：遠隔監視サービスの拡大と利益の最大化
- 常用 (国内) ：・再エネ需要の拡大に対応するため、生産能力を確保
  ・パワーコンディショナ併設型ESS新商品の販売拡大
- 非常用 (海外)：先行技術の投入、2ndブランド活用によるOEM調達の推進
- フォークリフト用：・フォークリフト用鉛蓄電池新工場の稼働による生産体制の構築
  ・タイをハブとしてアセアンを中心にグローバル進出

関連データ

売上高・営業利益・営業利益率



売上構成比推移



(注) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度は、変更後のセグメントにより記載しております。
(注) 2026年度より、鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。2025年度の売上高、営業利益（利益率）および売上構成比推移は変更後の報告セグメントにより記載しています。

＊関連リンク ＧＳユアサレポート2026「事業概要・市場環境」
ＧＳユアサレポート2025「事業戦略－社会インフラ：産業電池電源事業」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

社会インフラ　航空・宇宙・防衛

事業の概要・特徴

ISS(国際宇宙ステーション)、人工衛星、航空機、潜水艦用など特殊用電池の製造・販売

- 宇宙や航空・深海など特殊環境のフィールドで使用されるため、高性能かつ高品質な商品が求められている。
- 電池の種類は多岐にわたり、大容量鉛蓄電池、大型リチウムイオン電池、熱電池、大容量リチウム1次電池、海水電池などを取り扱っている。
- 防衛関連である潜水艦用リチウムイオン電池や特殊用途向け熱電池の需要が急拡大。
- 航空機用リチウムイオン電池の補修向け需要が増加傾向。

市場シェア

宇宙用リチウムイオン電池
シェア **世界トップクラス**

拠点数

生産：3 拠点
販売：2 拠点
（2026年3月時点）

販売先・グループ会社の体制

用途	販売先
潜水艦用	日本政府
航空機用	航空機メーカー／エアライン
宇宙用	JAXAなど

<グループ会社>

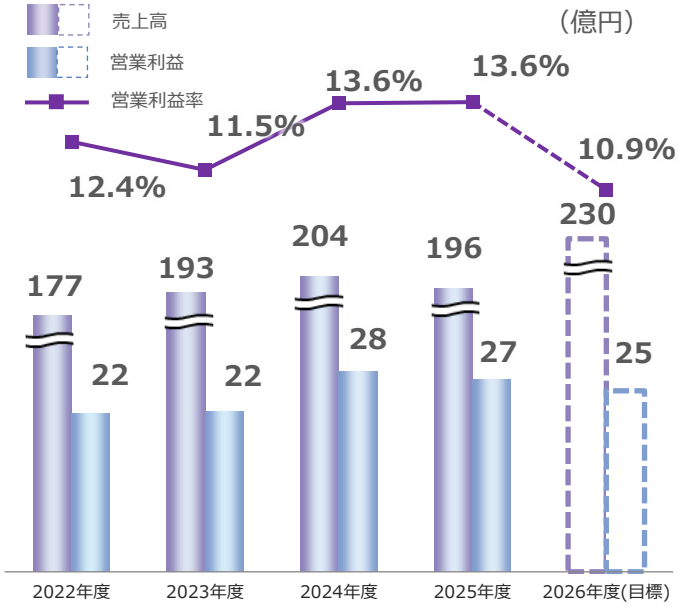
㈱ジーエス・ユアサ テクノロジー	宇宙用電池など特殊電池の製造・販売

今後の戦略

- 潜水艦用：・次世代潜水艦用リチウムイオン電池の開発
  ・適正な利益確保と電池の交換需要に向けた準備を進める
- 航空機用：需要増に対応、新製品開発と新規顧客開拓による拡販
- 衛星用：増産体制の構築、販売拡大

関連データ

売上高・営業利益



主な採用・搭載事例

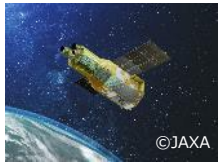


ISS(国際宇宙ステーション)



H3ロケット


Boeing 787



X線分光撮像衛星
XRISM



しんかい6500

＊関連リンク ＧＳユアサレポート2026「事業概要・市場環境」
ＧＳユアサレポート2026「事業戦略－社会インフラ：航空・宇宙・防衛」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

設備投資・減価償却費・研究開発費

（億円）

		2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度 (予想)	2026～28 年度累計 (計画)
設備投資額		**494**	**588**	**544**	**870**	**2,250**
モビリティ	鉛蓄電池（国内）	32	30	38	55	
モビリティ	鉛蓄電池（海外）	73	88	116	140	
モビリティ	リチウムイオン電池	150	130	82	90	
社会インフラ	産業電池電源	20	57	40	435	
社会インフラ	航空・宇宙・防衛	218	281	268	40	
	その他				110	
減価償却費		**228**	**247**	**266**	**250**	
	うち、リチウムイオン電池	49	61	73	76	
研究開発費		**140**	**185**	**211**	**250**	
モビリティ	鉛蓄電池 国内・海外	20	20	23	–	
モビリティ	リチウムイオン電池	76	132	137	–	
社会インフラ	産業電池電源	41	30	45	–	
社会インフラ	航空・宇宙・防衛（管理部門費含む）	3	4	6	–	

✓ **成長投資**
モビリティへの成長投資：500億円
社会インフラへの成長投資：850億円
✓ **基盤投資**
事業基盤への投資：900億円

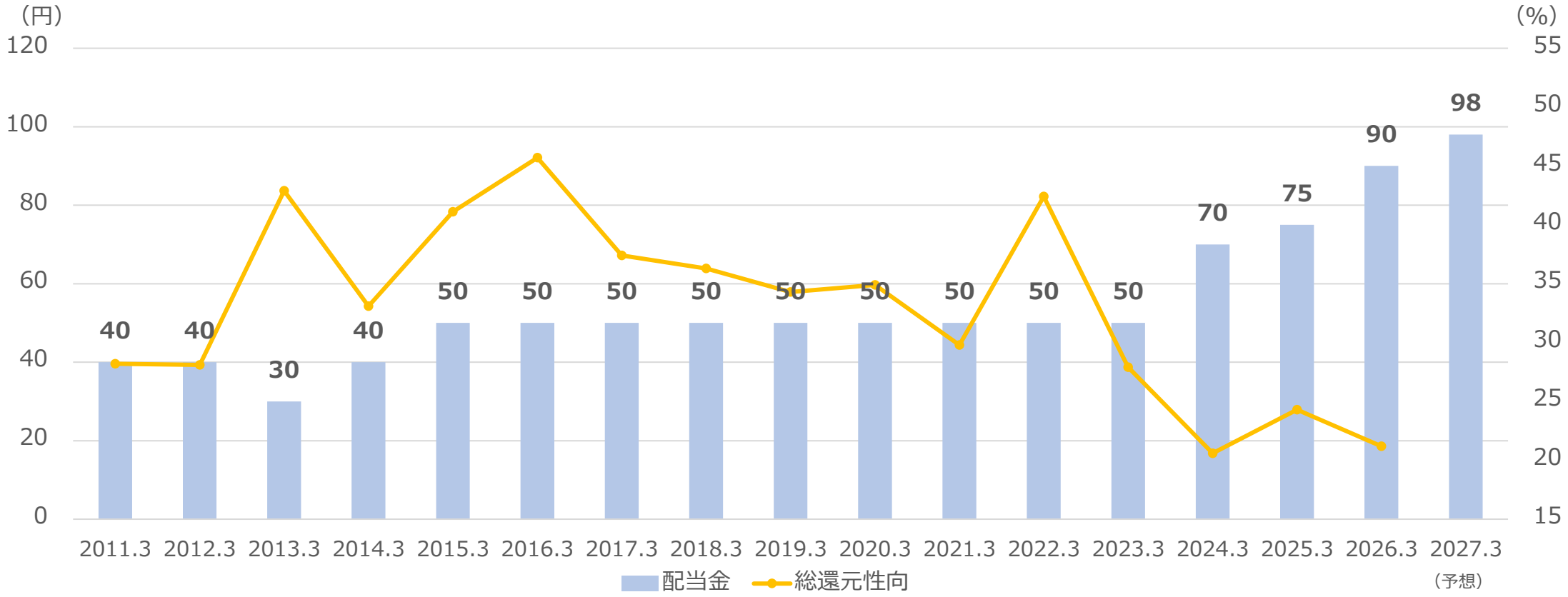
・ESS向け
定置用リチウムイオン電池
新工場建設費用

＊関連リンク WEBサイト「長期ビジョン・中期経営計画」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

株主還元

当社は単年度の利益変動に左右されず、将来的な収益拡大の成果を株主還元の向上として反映するために、株主資本配当率（DOE）3.0%を目安とする累進配当を目標としています。

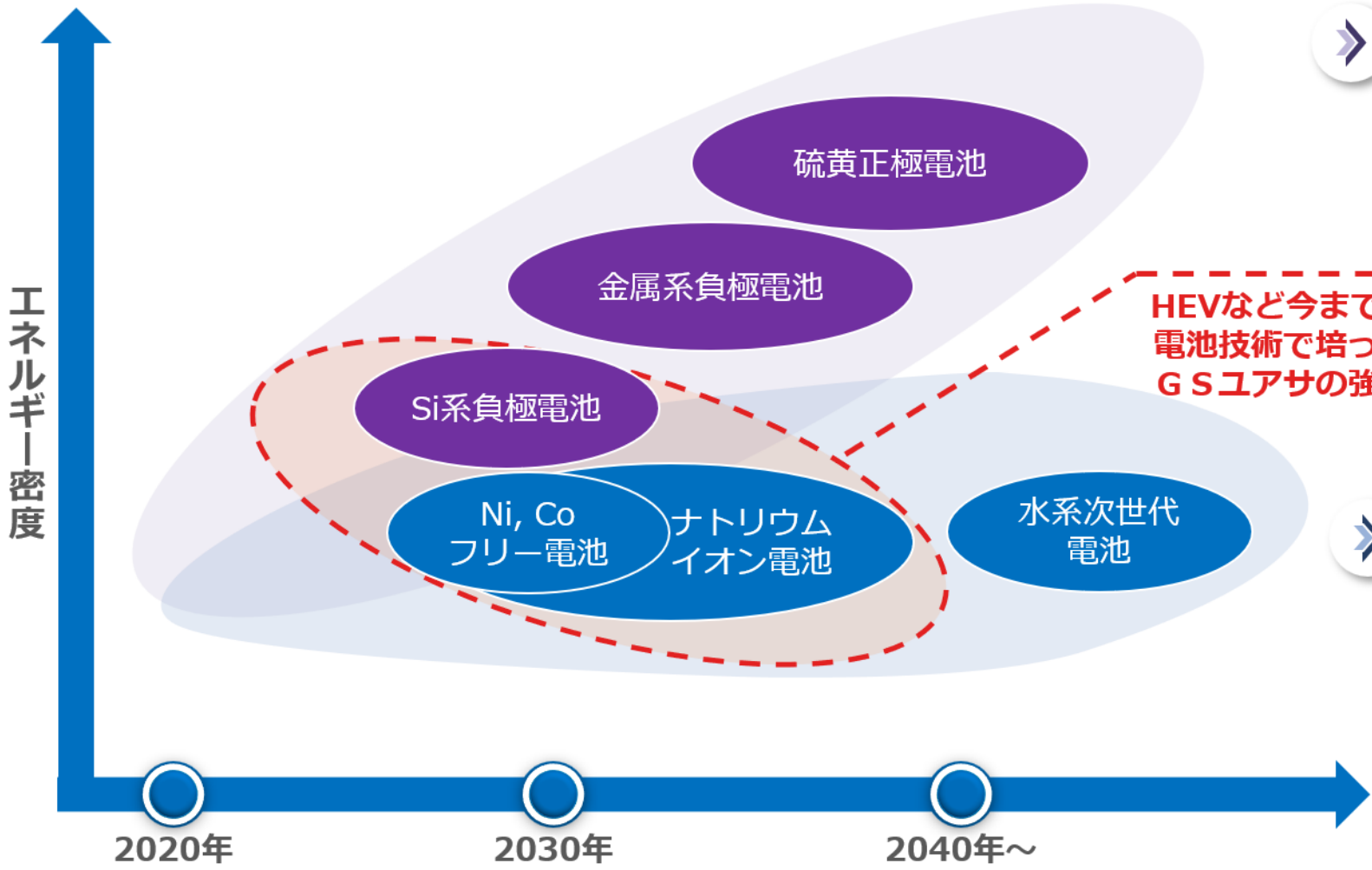


＊関連リンク　ＧＳユアサレポート2026「コーポレート・データ」

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

研究開発：次世代電池開発の取り組み

高安全・長寿命・再資源化をキーワードに電池の進化を実現します



HEVなど今までの
電池技術で培った
ＧＳユアサの強み

エネルギー密度の進化

- 次世代LiB (含む全固体)

航空機・ドローン・衛星など

出力の進化

- Ni, Coフリー電池
- ナトリウムイオン電池
- Si系負極電池

AIDC・12V LiBなど

サステナブル化

- レアメタルフリー電池

ESS・AIDC・12V LiBなど

＋

**電気化学応用した
技術開発にも取り組みます
（CO_2分離回収など）**

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

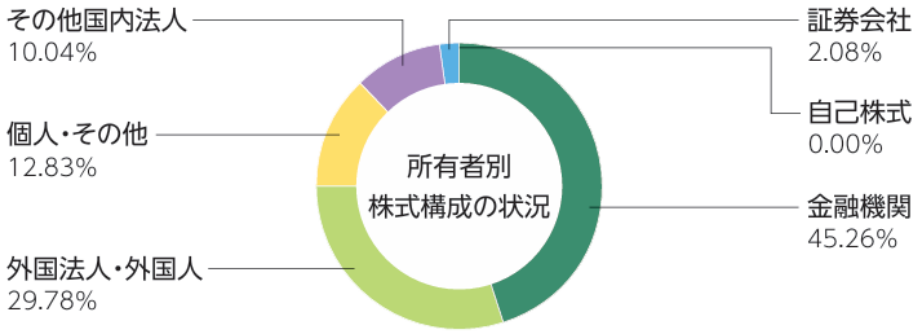
４.その他

■株式情報 …… 25

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

株式情報

株式の状況 (2026年3月末)



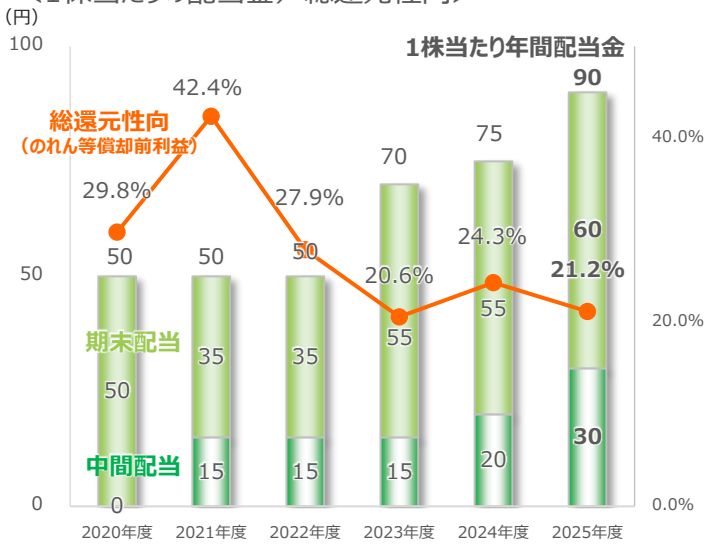
発行可能株式総数	280,000,000 株
発行済株式総数	100,446,442 株
株主数	34,242 名

格付け (2025年8月末)

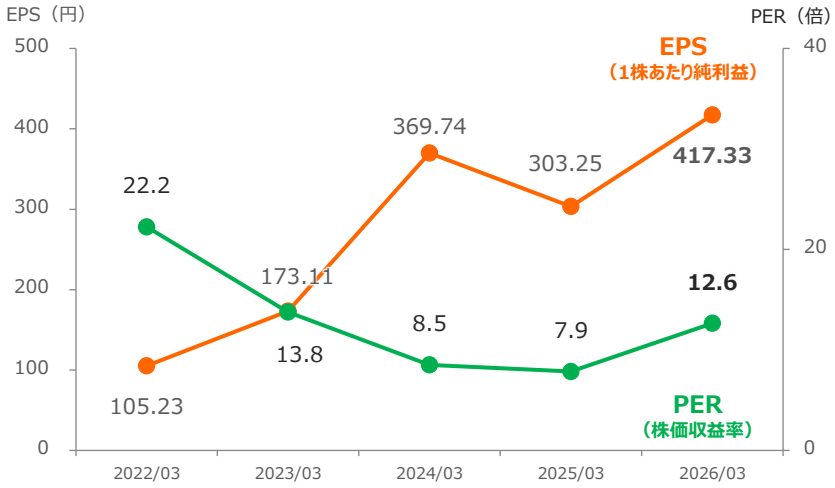
長期発行体格付	A (安定的)
債券格付	A
国内CP格付	J-1

その他データ

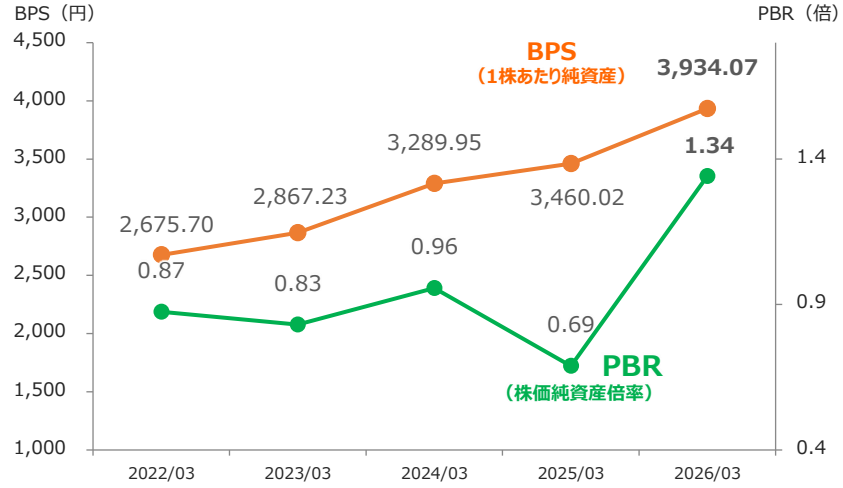
＜1株当たりの配当金／総還元性向＞



＜EPS・PERの推移＞



＜BPS・PBRの推移＞



(注) PER・PBRの基準株価は、3月最終営業日の終値です。

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく
現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。
また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

Creating the Future of Energy

お問い合わせ先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報・IR）
Tel：075-316-3486（代表）
E-mail： web_contact@jp.gs-yuasa.com

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.